

【現地からのレポート】

現地レポート（共和会チーム）

（メール報告から）

3/31 3:59 PM 高村先生

今朝先に帰る看護師三人と朝早く七が浜町を見に行きました。道のがれきはかなり撤去が進み、月曜に通れなかった道にも入れましたが、個人の敷地は変わらず潰れたままです。

地震の揺れだけなら被害ははるかに少なかったと思います。

今日は支援医師が増えて、ナースが減り、午後は医師3名にナース1名の配置です。

現地レポート（尼崎医チーム）

（尼崎医対策ニュースNo16より）

汚いトイレ、風呂に入れない、温かい食べ物は一切ない・・・大規模避難所

<宮城医師からの報告>

多賀城文化センターは、最高1,000人以上の大規模避難所ですが、少しずつ減って、昨日（30日）現在で523人です。この大規模避難所では多くの問題点をかかえています。

まず、**第一に、食事の問題**です。配給されたものを配るだけで、ほとんどパンかバナナです。計算してもらって1日1,100~1,200キロカロリーくらい。炊き出しはなくて、温かいものは一切ありません。30日、7ヶ月の妊婦さんが一人でいるのを発見しました。食事が心配です。

次にトイレの問題です。和式の仮設トイレで、便がたまると棒で押し込むようになっていますが、その棒が汚い。身障者トイレは2階に1箇所だけ。ボランティアさんが介助していますが、この身障者トイレまで、1階、3階にいる身障者にとっては遠すぎます。膝が悪くて洋式トイレを使いたい人は使えないのが実態です。**三つ目は、お風呂の問題**です。自衛隊のお風呂はありますが、洗髪のみ。外に出られない人はお風呂に入っていません。**四つ目は、避難所の床**。先ず寒い。土足で使っていて、どんどん汚れてくるけど、一面に毛布が敷いていて、掃除ができない状況です。**五つ目は階段**です。エレベーターは1基しかありません。皆さんは階段を使いますが、足を踏み外して骨折した人がいました。今日（31日）手術になります。**六つ目は、この多賀城文化センターの構造が複雑**で、全体がなかなか把握できません。注意しなければならない人のマップを作っています。**七つ目は、避難所の管理体制の弱さ**です。副館長さんが、ほとんど一人で管理されていて、毎日消耗していくのが見ていてかわいそう。**最後に、プライバシーが守**れていないことです。沖縄からきた女医さんに、ある女性が「下着を変えられない」と訴えました。施設に言ったけど「ここにはプライバシーはない」と言われたと。私が交渉して、女性更衣室を1部屋確保してもらいました。

もっと問題点は一杯ありますが、今日（31日）施設管理者と交渉する予定です。ここ（多賀城文化センター）は避難所には全く不向きですが、現在、「避難所の統廃合」の話がすすんでいて、小学校の再開に向けて、この避難所に不向きな「多賀城文化センター」に集中するとの話しもあって危険です。

3/31 全日本民医連震災対策本部（介護・福祉部）通達

被災地域・避難所に私たちのケアを届けよう

—新たな段階での介護職支援活動について

「被災から2週間を迎えつつある状況と4月からの救護活動の基本方針」（3月23日全日本民医連震災対策本部）の中で今後の支援課題として医療支援とともに、介護・生活に重心を移した支援活動を重視していくことが提起され、この方針をふまえ介護職の支援について4月以降は独自に支援者を集約することとなりました。支援方針より、宮城支援については当初方針の地協・県連割りを基本としますが、宮城野の里、長町病院へのシフトを含めた調整を行う場合がありうること、支援者登録について介護支援については、医師等の支援者とは別枠で支援予定者を集約すること、などの通達あり。

法人別義捐金集約（4/1現在） 18,843,202円

尼崎医グループ	5,067,127円	たじま医	569,290円
共和会グループ	6,557,782円	駒どり	1,562,340円
神戸医グループ	2,867,885円	はあもにい	95,090円
宝塚グループ	543,879円	県連・兵医協	441,000円
姫路医	1,138,809円	合計	18,843,202円